

Refer to 61

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
⑩ 公表特許公報 (A)

⑪ 特許出願公表  
昭57-500592

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 B 17/36

識別記号

厅内整理番号  
7058-4C

⑬ 公表 昭和57年(1982)4月8日  
部門(区分) 1(2)  
審査請求 未請求

(全 7 頁)

## ⑭ 多極電気的手術装置

⑮ 特 願 昭56-501899  
⑯ 出 願 昭56(1980)10月28日  
⑰ 請訟文提出日 昭57(1982)1月13日  
⑱ 国 標 出 願 PCT/US80/01443  
⑲ 國際公開番号 WO 81/03271  
国際公開日 昭56(1981)11月26日  
優先権主張 ⑳ 1980年6月13日⑳米国(US)  
⑳ 145576  
㉑ 発明者 オース・デービッド・シー  
アメリカ合衆国ワシントン州98005ベル  
ビュー・ワン・ハンドレッド・アンド -

㉒ 発明者 トウエンティーサード・アベニュー・サウ  
ス・イースト2220  
オピー・エリック・エイ  
アメリカ合衆国ワシントン州98103シア  
トル・アシュワース・アベニュー・ノー  
ス3914  
㉓ 出願人 アメリカン・ホスピタル・サプライ・コ  
ーポレーション  
アメリカ合衆国イリノイ州60201エバン  
ストン・アメリカン・プラザ1  
㉔ 代理人 弁理士 湯浅泰三 外2名  
㉕ 指定国 DE, JP

16

## 請求の範囲

1. 周囲、近接端部から末梢部にまで延びている長さ方向軸線および近接端部から末梢部にかけての出口孔にて延び組織をきれいにする導体が通過できるようにする導体過路を有する多極プローブ本体と、プローブ本体に接続された電気的に絶縁されている複数の導体とを備えており、導体にはプローブ本体の周面上に電極が形成され、1つの導体の電極が別の導体の電極間に介在せしめられ、異なる導体の電極が出口孔付近で末梢部上と周囲面上とに開隙をあけた対にして延びプローブ本体が使用される時形成される組織に相対的に有効に多極側面に対して組織を少くとも双極側面できるようを寸法と分布とにしてあることを特徴とする請求の範囲に使用される電気的手術装置。

2. プローブ本体上の導体には末梢部と周囲面上とに延びている少くとも2個の複数の電極が形成されている請求の範囲第1項の電気的手術装置。

3. 導体がそれぞれプローブ本体の周面上に長さ方向軸線に対し平行に記載された少くとも3つの電気的に接続された長さ方向電極で形成され、異なる導体に接続された電極がそれぞれ反対に内側方向に互いに開隙をあけられプローブ本体の周面上に少くとも双極側面する能力を生じるようにしてある請求の範囲第1項の電気的手術装置。

4. プローブ本体が複数の絶縁材で形成されている請求

17

## の範囲第3項の電気的手術装置。

5. 导体過路には電気的に絶縁された導体の一方のものに電極に電気的に接続されている導電性ライニングが設けてある請求の範囲第1項、第2項、第3項または第4項の電気的手術装置。

6. プローブ本体が導電性導体過路の末梢部に接続するはば中心の開口を設けた矩角形状の末梢部を有し、導電性ライニングに接続された電極がプローブ本体の矩角形状の末梢部上に延び導電性ライニングに末梢部で接続し、別の導体に接続された電極が末梢部上に延び導電性ライニングに接続された電極から開隙をあけた周囲にしておりプローブ本体の末梢部にかけて多面調節能力を生じるようにしてある請求の範囲第5項の電気的手術装置。

7. 電極が長さ方向軸線を中心として約60°程度の傾斜導角度の範囲にして分布されている請求の範囲第6項の電気的手術装置。

8. 多極プローブ本体に位置決めされた電極の数が対応する多極エネルギー源による電極の多極付勢に比例して選択される請求の範囲第1項の電気的手術装置。

9. プローブ本体が周面と内側側面過路をその近接端部から末梢部にまでプローブ本体が通過できるようにする寸法にした所因とを有している特許請求の範囲第1項、第2項、第3項、第4項または第5項の電気的手術装置。

10. 导体過路に電気的に絶縁された導体の1つの電極に